

イグテル 談話室
 新型コロナウイルスと子ども③

デルタ株の感染力
 記者 日本における新型コロナウイルスの感染拡大で、デルタ株という言葉をよく聞きますが、イケノ 感染の初期

須坂青年会議所の公開討論会後半
住みたいまちが移住にも
 テーマ別に3市町村長と意見交換

市民公開討論会「第2回すさかいき」(須坂青年会議所主催)9月20日、須坂市シルキホール(後半)をこ



討論テーマ2「移住促進と空き家問題」で、どの地方移住に対し、空き家のマッチングをすれば須高地域の人口増加や活性化につながる

には、イギリス株とかブラジル株と名前がついていますが、国名を付けることは差別にもつながるので、発生した順にギリシャ文字のアルファベットで呼ぶように変わってきました。ちなみに古い順にイギリス由来の変異株(遺伝子型B・1・1・7)がアルファ(アルファベットのA)株、南アフリカ由来の変異株(B・1・351)がベータ(アルファ株の広がりがやすさは水痘(水ぼうそう)に匹敵する可能性がある)に由来の変異株(B・1・1617.2)がデルタ株(はしか)をわず

かに下回る程度だと、警告を発しています。記者 病名だけ聞いてもピンと来ませんか。イケノ 最も感染力の強い麻疹は、広い空気の感染で感染力が強いので、入院する場合はウイルスを含む空気が外へ出ないように陰圧個室を使います。記者 実例を出してもう少し分かります。イケノ 新型コロナウイルスに起こった最初のサルス(SARS)のR0は3.0、2012年に初めて確認された2

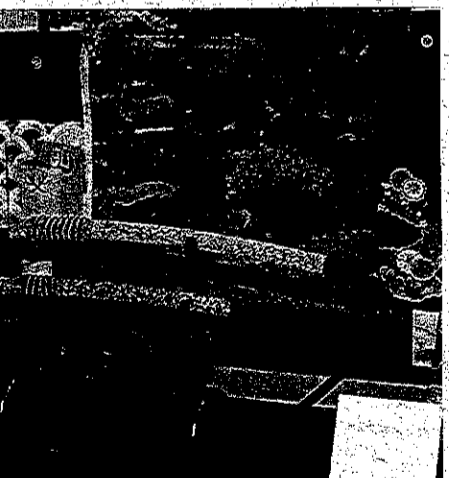


番目の中東呼吸器症候群(MERS)は0.69、1.3で、7月にCDCは、デルタ株のR0は5.9と推定しました。この数は、中国の武漢で確認された最初の新型コロナウイルスのR0の2.7や、アルファ株(英国で初確認)のR0は4.0より高くなっています。現在のデルタ株は、1人から平均5から9.5人に感染を広がっているわけですが、感染者数を減らすには、R0が1以下になる必要があります。(長野松代総合病院小児科部長 伊藤 浩二)

ついでに須高3市町村の取り組みや現状、展望を尋ねた。内山信行村長は「専門家を招いて空き家解消に向けた会議をしていく。移住希望者が田舎に抱くものは、自然の豊かさ、人の良さなどいろいろだが、仕事の場所がない、店や学校まで遠いなどの声を聞く。その点を十分理解した上で、重要な。耕作放棄地が課題の果樹産産でマッチングを図り、田舎暮らしが楽しめるよう取り組む」と話した。校井昌孝町長は「新しい住宅ができる一方で空き家問題が存在する。空き家はあっても、貸し物件として出てこないのは、知らない人が住むことに抵抗感があるからか。働き場の

問題もある」。三木正夫市長は「生まれ育った所に誇りを持っていくことが大事だ。人口減の中でも持続する地域の観点から、須坂市は子育て世代をはじめ転入者が多い。子育てしやすいまちだと思っている」。ウヰエ視聴者からは「国の政策にとまらないうちの地域の知恵と特色を出して現状を改善し、子供を産み育てるなら須高だと行政担当者からリーダーシップを発揮して、深く関わってほしい」と要望が寄せられた。須坂高校生は「相森中道学区は若く人口が減っているように感じる。昔は人が多く、家がなかったが、空き家が増えてしまっている」と述べた。旭ヶ丘と豊洲の

アニメの世界観を楽しんで
 田中本家博物館「きもの刃」展



須坂市製町の田中本家博物館は、秋季特別展「きもの刃」を開催している。同家に伝わる約50点を公開している。近年、幕末から大正時代を舞台にしたアニメや映画作品が人気で、物語や登場人物だけでなく、刀や衣装、時代背景にも興味、関心が集まっていることから企画。刀と着物は美術品としてジャンルが違っても、それぞれ展覧会になるのが一般的で、同館でも刀と着物が一緒に楽しめる企画展は珍しいという。同館は「当時の雰囲気や作品の舞台となっている世界を楽しむ手前がかりにしてほしい。人の思いをつないで今日まで同館に託されてきた刀や着物が、皆さんの想像力を刺激できればうれしい」と話している。同展では、江戸時代の遊郭の様子が分かる6点の浮世絵も併せて展示している。展示は12月12日まで。休館日は毎週火曜日(祝日の場合は翌日)、10月は無休。開館時間は平日午前11時午後3時半、土曜祝午前10時午後4時。入館料は大人1000円、中学生350円、小学生250円。同館 0248-80008。また、同館が7月9日から8月13日に行ったクラウドファンディングは、317人の支援者から総額700万円が集まった。支援金は博物館の運営費として使われる。田中新十郎館長は「予想以上の支援と感謝の気持ちでいっぱい。文化遺産を未来へつなぐために活用します」と感謝した。

三木市長は「ここに住む人にプラス、北信にプラスが一番だ」と応じた。討論テーマ3「政治参加と地方自治」で、沢コーディネーターは「どうすれば若者や女性の政治参加が実現できるかを尋ねた。地区代表として地区の声を届ける従来の議員像が、インターネットやSNSの普及とともに変化している。持続可能なまちづくりや地方議会には若手や女性の登場が不可欠(コーディネーター)とした。三木市長は「若い人をつくるのが一番大事だ。産業活性化の意をどう考えているか正直分らない。市民や団体から聞くことを続けているが、直接意見交換する場が大事ではないか。投票率を上げるためには、小中高生の時から政治の大切さを体験し、親に大切さを訴えていくことが大事だ。女性にはぜひ立候補してほしい」。校井町長は「若者の政治離れは確実にあると思うが、町政に関心を持ってくれる若い人も大勢いる。生活できる額に議員報酬を引き上げるか、昼間仕事をし夜に議会を開くか、引き下げて日当にするかなどさまざまな意見がある。町議会政策アワーは変わっていくと体験から思う。3市町村連携で観光を考えてほしい。まずは来ていただく」と話した。

ただ、同館が7月9日から8月13日に行ったクラウドファンディングは、317人の支援者から総額700万円が集まった。支援金は博物館の運営費として使われる。田中新十郎館長は「予想以上の支援と感謝の気持ちでいっぱい。文化遺産を未来へつなぐために活用します」と感謝した。三木市長は「高校生と意見交換できるのがうれしい。女性も地域づくりをしたい」。校井町長は「夕暮れの高山村を見た時、高山村は国のまはるはだ」とつくづく思う。3市町村でますますいい地域になるよう協力してつなげていきたい」。宮沢さんは「語り尽くせないが、須高の未来を考えると、つなぐべきは、須高の未来を築いていくことだ」と締めくくった。